

## 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

児童生徒一人ひとりの個性と可能性を大切に、「楽しく学び、ともに育ち、豊かに生きる」教育の実現を図る。

## ○よりよく生きるための知識と理解を培う。

自分自身の病気に対して正しい知識を持ち、病状等を理解することにより、心理的に安定し病気を自己管理する力や病状に即した生活習慣を形成する態度とよりよく生活しようとする意欲を育てる。

## ○学ぶ楽しみと学ぶ意欲を高める。

興味・関心・得意な分野等を自ら発見し、すすんで学習することによって得られる喜びをとおして、学びを大切にできる態度や意欲を高める。

## ○社会に積極的に参加し、自己実現をすすめる。

多様な体験を通して、コミュニケーション力やソーシャルスキルを身につけ、地域社会で周囲の人々とともに、積極的・自主的に活動し、自己肯定感を高め、自己実現をめざす意欲を培う。

「病気であること」「病気であったこと」を自己実現の学びの場ととらえ、それらを糧として成長する力を養う。

## 2 中期的目標

## 1 児童生徒一人ひとりの状況に合わせた学力向上と病気の自己理解による自立・自己実現への取組みの充実

- (1) 自立活動や総合学習を活用して病気の自己理解を進め、退院後の家庭や地域校での生活に積極的に参加できる力を育成する。
- (2) 個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成と活用の充実を図る。また、児童生徒の特長を伸ばす支援体制の確立をめざす。
- (3) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、長期欠席等による未学習部分を補い基礎学力の定着を図るとともに、見通しをもって粘り強く取り組む力や他の児童生徒、教職員、医療関係者等との対話を通して自己の考えを広げ深めていく力の育成を図る。また、不足しがちな実験や観察などの体験的学習を補うため、各教科等でICTを活用した授業実践を進める。
- (4) 児童生徒理解及び人権の擁護、保護者支援、個人情報の保護等、児童生徒が安心して学校生活を送り、自らの生き方を考えていけるよう、計画的・継続的に教職員研修を実施し、教職員の資質向上を図る。
- (5) 各種病弱教育研究会への実践発表に取り組むことにより病弱教育の専門性を高めるとともに、保護者や病院関係者等との信頼関係を構築できる若手教員の育成を図る。

## 2 小・中で連続した、病弱支援学校としてのキャリア教育の推進

- (1) 小・中学生のキャリア支援において、学校全体のシステムを確立し、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた進路指導に取り組むとともに、高等学校等との連携を図り進学後の支援についても連携体制を整える。
- (2) 地域校におけるキャリア教育と連携し、復学後、スムーズに教室に戻れるようにするとともに、病気のある児童生徒の将来を見据えたキャリア教育について検討し、よりよく生きる力を育成する。

## 3 継続支援及び地域連携体制の充実

- (1) 保護者や地域校及び医療と計画的なケース会議を実施し、適切な学習指導・生活指導・保健指導について四者間で共有することにより、入院時から退院後、進学後までの継続した支援を行う。
- (2) 地域連携部を中心に、地域社会で医療を必要とする児童生徒や本校に在籍した児童生徒の退院後の教育相談をさらに推進する。
- (3) 病弱教育の理解を深める広報活動について、ホームページやリーフレット等の作成と配布並びに広報紙などを活用し、地域で生活している病気のある児童生徒へ教育支援を行う。
- (4) 「教育コミュニティ推進事業」を活用し、地域に対して「学びの場」の提供をおこない、支援学級との連携や病弱教育の理解啓発につなぐ。
- (5) 安全安心な学校づくりを目標に、保護者・病院と連携した防災教育、いじめ対応の充実を図る。  
教職員の働き方改革について安全衛生委員会を中心に検討し、多忙感の減少、風通しのよい職場環境の充実を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 11 月～実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○対象：児童・生徒、保護者、医療関係者、教職員 方法：1 か月以上の在籍者に随時実施（前年比：△増加、▼減少）</p> <p>【児童・生徒考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校が楽しい」(△5.0P)「授業はわかりやすい」(△2.0P) との結果から学校の教員全体で児童生徒を見守り、関わりながら分かりやすい授業の工夫をすすめてきた成果があらわれていると考えられる。</li> <li>・「これからの夢や職業、進路について先生と話し合ったことがある」の項目で(▼18P)となっている。さまざまな病気の生徒が入級してくる現状から、その病状によっては非常に配慮を必要とする項目であり、個別に合わせて気持ちを前向きにさせるキャリア教育を実践していくことが課題である。</li> </ul> <p>【保護者考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校が楽しい」(△6.0P)「授業はわかりやすい」(△1.0P) と一昨年より改善され、おおむね良好と判断できる。</li> <li>・「行事は子どもが参加しやすいように配慮されている」(▼4.0P) となっており。大きな行事だけでなく、PTA行事を含め自立活動等を利用した取り組みなど改善していくことが課題である。</li> </ul> <p>【医療関係者考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート回収が昨年より 1.5 倍に増え、ほぼすべての項目で肯定的意見が 80 パーセントを超えておりおおむね学校の取り組みに理解いただいている。</li> </ul> <p>【教職員考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に肯定的な意見が 80 パーセントを超え、日々の教育活動に意欲的に取り組んでいると考えられる。</li> <li>・小学部低学年からのキャリア教育について研究をすすめていくことが課題。</li> </ul>	<p>第 1 回 (7/13)</p> <p>○ 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感を高めるという目標は良いと思う。</li> <li>・ハンディのある子どもでも他の子どもたちと同じように社会生活できるという発信ができるのは支援学校しかない。支援学校としての意義をもう一度考え、社会へのアピールを実現してほしい。</li> <li>・教職員のメンタルヘルスについては、本校では相談体制を作り、各分教室単位で行っている。</li> <li>・ヒヤリハットについては、細かいことでも共有することが、大きな事故を防ぐことにつながるのではと考える。</li> </ul> <p>○ 全国病弱教育研究連盟発表について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他職種間連携を実現し児童生徒の支援をしていくことは大事である。次に関わる子どもに活かしていき、支援が地域に広がればと思う。</li> </ul> <p>第 2 回 (11/16)</p> <p>○ 修学旅行について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行先への距離よりも、病気の子どものために心理的安定や社会性、自立心のはぐみができるかが大切ではないか。</li> </ul> <p>○ 校外学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分教室同士の交流にもなり。全校で行く意味はあるのではないか。</li> </ul> <p>第 3 回 (2/22)</p> <p>○ 今年度の経営計画の評価および来年度の経営計画について協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・30 年度経営計画及び評価案を承認。</li> <li>・31 年度経営計画及び評価案を承認。</li> <li>・今年度の初任者教員からの報告を聞く。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>学力向上と自立・自己実現の取組み</p>	<p>(2) 個別の教育支援計画・個別の指導計画の充実及び児童生徒の特長を伸ばす支援体制の確立をめざす。 ア 個別の教育支援計画・個別の指導計画のより有効な記載について検討する。 イ 児童生徒の特長を伸ばす支援の確立のため、検査に関する基礎的な知識の獲得をめざす。 (3) 「主体的・対話的で深い学び」の実現及び体験的学習を推進する。 ア 地域校と連携した学習計画と ICT を活用した授業を推進する。 イ 読書活動の推進 (4) 児童生徒の個人情報の保護、安心安全な学校づくりの展開 (5) 病弱教育の専門性を高めるとともに保護者や病院関係者等との信頼関係を構築できる若手教員を育成する。 ア 府内及び他府県の病弱支援学校と連携し、教員の専門性向上を図る。 イ 国の研究への協力 ウ 若手教員の授業力及び教員力の向上を図る。</p>	<p>(2) ア 昨年度の検討結果を踏まえ、自立活動部を中心に個別の教育支援計画・個別の指導計画の記載内容の充実を図る。 イ 児童生徒が受けることの多い検査について、前年度受講していない教員を中心に指導教諭による教員研修を実施する。 (3) ア 地域校との連携により未学習部分を補い、基礎学力の定着を図ることで、児童生徒が粘り強く学習に取り組む姿勢を育成する。さらに、ICT を活用した授業を推進する。 イ 今後、社会で求められる力である読解力の育成に向け、継続的に蔵書整理を進め、本校と分教室との相互貸し出しのシステムを検討するとともに、児童生徒の読書に対する意欲を高める読書企画を実施する。 (4) 全部署で持出し簿の確認・文書発送時のダブルチェックを継続するとともにヒヤリハットを全教職員で共有。未然防止に取り組む。 (5) ア 全国・近畿等の病弱教育研究会に参加するとともに、実践発表を通して情報共有・情報交換を行い、教員の専門性の向上を図る。 イ 国立特別支援教育総合研究所では、平成29年度より心身症のある児童生徒への支援に関する調査研究(2年間)を行っている。その研究に協力し、先進的な支援について学ぶとともに、教育実践に活かしていく。 ウ 「病弱教育の専門性の向上のための研究」を3年間の研究テーマとし、教員が互いに学びあう機会を計画的に設ける。さらに、若手教員対象の研修を実施する。</p>	<p>(2) ア 年度当初に、全教員で記載内容について共有を行い実践。自立活動部で集約し確認(各学期) イ 6月より年間5回の教員研修を実施。(知識理解の獲得80%) (3) ア すべての児童生徒について、地域校と連携し、学習進度及び未学習部分の確認を行い、授業に取り入れる。ICT を活用した授業を全部署で3回以上実施。また、必要に応じて分掌等の会議にテレビ会議を取り入れる。 イ・蔵書整理(夏季休業中～)及び相互貸し出しシステムの実施に向けたネットシステムの検討。 ・読書活動推進委員会を中心に全部署が関わる企画を実施。 (4) 持出し簿等の記録を集約し記載内容を確認(各学期)。運営委員会・全校職員会議で毎回、意識啓発を行うとともに、ヒヤリハット事例の発生件数5件以下。 (5) ア 全国大会で医療者及び様々な医療スタッフと連携したチーム支援について実践発表。大阪病弱教育研究会幹事校として、府内の病弱教育担当教員を対象に研修(8月)・教材交流会(1月)実施。 イ 特総研主催の研究協議等に参加。特総研での研究成果物の作成に協力。 ウ 全校研修(年間3回)を実施するとともに、新転任者を対象に社会人マナー研修、事務関係研修を取り入れ、業務上必要な基礎的な力を育成する。</p>	<p>(2) ア 自立活動部が中心となり、記載内容の共有を実践できた。今後も児童生徒の支援に役立つツールとなるよう改善に努める。(○) イ 指導教諭、研究部を中心に教員研修を実施し、知識理解が深まった。(○) (3) ア 地域校との連携会議100%開催で連携強化。全部署でのICT活用授業実施。(○) ネット環境整備をすすめたが、TV会議を開ける環境には至っていない。(△) イ 本校図書館を中心に蔵書管理をバーコード入力でシステム化を推進。(○) ・読書委員会だより発行、読書横綱表彰など実施。(○) (4) 個人情報保護の徹底・個人情報事案0を継続。(○) (5) ア 大病研幹事校として研修会、教材交流会を開催。成果を研究誌にまとめて発刊。アンケートで肯定的評価80%以上(○) イ 特総研との共同研究に協力し、研究成果を発表(3/2)(○) ウ 研究部、指導教諭、外部講師による研修会を予定通り実施し、アンケートにより肯定的な評価が80%(○)</p>
	<p>キャリア教育の推進</p>	<p>(1) 小・中学生の進路支援において、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた進路指導に取り組む。 (2) 病気のある児童生徒の将来を見据えたキャリア教育について検討する。</p>	<p>(1) 中学部の評価・評定システムを基に、小学部児童の評価・評定システムの見直しを行う。 (2) 病種によって将来必要となる生活の在り方が異なるため、各部署の状況に応じたキャリア教育に関わる取組みを行う。</p>	<p>(1) 教育課程の変更に伴い、進路支援部を中心に教務部と連携し、小学部の指導要録・調査書様式の変更及び評価・評定について見直す。 (2) 自立活動等の時間を活用し、キャリア教育に関わる内容を取り上げ実践。(全部署)</p>

継続支援及び地域連携体制の充実	<p>(1) 保護者・地域校・医療と連携した継続支援を行う。</p> <p>ア 保護者・地域校・医療と連携したケース会議を実施。</p> <p>イ PTA 行事の推進</p> <p>(2) 地域社会で医療を必要とする児童生徒や本校に在籍した児童生徒の退院後の教育相談をさらに推進する。</p> <p>ア 訪問教育の広報強化。</p> <p>イ 退院後の状況の把握</p> <p>(5) 安全安心な学校づくりを目標に、保護者・病院と連携した防災教育、いじめ対応の充実を図る。安全衛生委員会を中心に教職員の働き方改革をすすめる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 保護者、医師、地域校との連携のもと、児童生徒の状態に合わせて、ケース会議を行い、スムーズな復学をめざす。</p> <p>イ 保護者と児童生徒が共に過ごせる機会を設けるとともに、保護者間の交流が図れるよう内容を検討し実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 他病院で治療を受けている児童生徒の教育を受ける権利を保障するため、訪問教育についての理解促進を図る。</p> <p>イ 退院、卒業後の状況を把握し必要に応じて支援・助言を行う。</p> <p>(5)</p> <p>ア 災害時の対応について、年度途中だけでなく、入級時に保護者と確認を行う。</p> <p>イ いじめの早期発見に向け、病棟と連携して、日々の連絡の中で、気になる状況があれば共有し確認。いじめが明らかになった時にはいじめ対策委員会で迅速に連携対応。</p> <p>ウ 安全衛生委員会によるストレス解消、メンタルヘルス等についての研修、レクリエーション企画等を実施。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 医師との連携によるケース会議の実施 (80%以上)</p> <p>イ PTA 行事の評価アンケートで保護者間交流 80%以上</p> <p>(2)</p> <p>ア 小中学校養護教諭研究会で訪問教育について説明 (5 市)</p> <p>イ 退院後アンケートによる状況把握の増加。(回収率 60%)</p> <p>(5)</p> <p>ア 入級時の確認事項に、災害時の対応確認を追加 (保護者との確認 100%)</p> <p>イ 年度当初に、いじめ対策委員会について全教職員で確認。校内研修の中にいじめ対応に関わる内容を入れる (年間 1 回)。</p> <p>ウ 職員のストレスチェックで示される指標について前年度より改善されているか。(改善箇所 1 か所以上)</p>	<p>(1)</p> <p>ア 医師との連携が必要なケース会議の実施 (100%) (◎)</p> <p>イ PTA 行事の評価アンケートで保護者交流 95% (◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア 本校の訪問教育について説明を実施 (5 市 岸和田、柏原、藤井寺・八尾、松原市) (○)</p> <p>イ 退院後のアンケート回収率 29% (△)</p> <p>(5)</p> <p>ア 保護者アンケートの結果 87% (△)</p> <p>イ 年度当初計画通りに実施できた。(○)</p> <p>ウ 職員のストレスチェックで示された指標が前年の結果より全項目で改善がみられた。(◎)</p>
-----------------	--	---	---	---